

森下 満彦 (メディア・アーティスト / 美術・音楽・パノラマ愛好家)
美術と映像に関する調査研究を続けながら、その知見を作品制作に反映させるとともに、上映会の企画も行う。個人的に制作された映像作品の保存のための、アーティストが運営する組織の設立を推進中。

それらの機器や種板、フィルムが高価であり、庶民にとっては高嶺の花であった事実があるにしても、しかしそれでも、例えは樋口一葉の「たけくらべ」において描写されているようなタコメディアとのつながりが、存在していたのである。このような点ははやもすると従来の映画史では取沙汰されていない領域であるが、個人的な映像表現の視点をも重視して考察を進めたい私にとっては重要である。メディア受容・活用の個人的、私的側面への目配り——これも先述のメディアの生態系の豊穡さを解明する上での大事な契機である。このような視点において、やがて大正末期以降、パテ・ベビーなどの小型カメラを用いたいわゆるアマチュアによる映画制作が浮上してくる。

【註3】 光田由里「ジレールとヴェール 世紀末日本を訪れた二人の映画技術」『映画伝来 シネマトグラフと〈明治の日本〉』若波書店 / 1995 年 / 49 ページ

【註4】 太田米男が中心となって同じ京都の中央区壬生に最近開設した「おもちゃ映画ミュージアム」も、Lumen gallery とともに、現在（そして、未来）のメディア都市京都を形成するものとなるであろう。詳しくは以下を参照：http://toyfilm-museum.jp

【図版1】 仏国自動幻画協会「シネマトグラフ興行ポスター【仮題】」(1897(明治30)年以降 / 筆者所蔵)。このポスターの印刷所、七宝堂の所在地も同じく、京六角新嘉東入であり、あの東向演劇場のほぼ近所になる。現在、この版元について調査中であるのでご存知の方はお知らせ願いたい。

EXHIBITION & VIDEO SHOWING REPORT

～おいしいさくひんめしあがれ～
もくもくシアター
cooked by seika eizo
2015 年 6 月 9 日 (火)
出版者 (京都精華大学 芸術学部 映像コース) :
會田 萌 柏木 晶生 くらたて さえ 栗原 隆 榎松 夏美
ササキ マイク 輪屋 尚子 ナカムラ リナ 清水 晴子
林葉 摘すみずほ 田中大樹 簡居 郁也 早川 輝
杉山 潤一郎 廣瀬 衣美 藤原 美里 まろちゃん

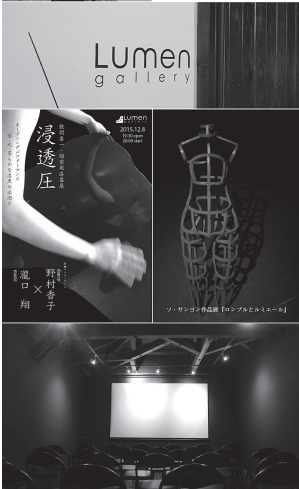
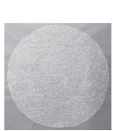
オガサワラ ミチ展 "tone"
2015 年 6 月 19 日 (金) ~ 28 日 (日)
電子音楽 × 絵 Masahiko Takeda × Michi Ogasawara
(電子音楽家と画家の実験的ライブセッション)
OHP ライブドローイング DJ : Masahiko Takeda

ANIMATION BANQUET
2015 年 7 月 11 日 (土) ~ 12 日 (日)
作り手と観客とが気軽に交流できる "ANIMATION BANQUET" = 「アニメの宴」という名の上映会。
インディペンデントなアニメ作品の裾野が広がる。
代表 : スタジオクロノ 中西 亮介
カサスリム & トモダマコ
ブルースハープ : ミニライヴ (7/12)

「何かを何かにためにしておくために」
玉利萌々子・中村朱里 作品上映会
2015 年 7 月 28 日 (火) ~ 30 日 (木)
二人の作家の多様な映像作品 (アニメーション・実験映像・ドラマ・ドキュメンタリー) を上映



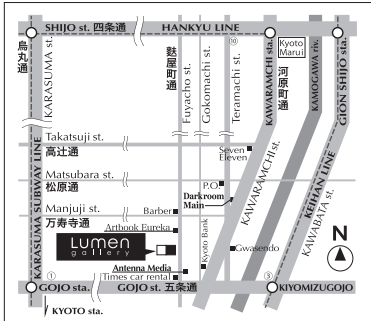
井上 茜展 「糸白 水」
12.1 - 12.6, 13:00-19:30



Schedule

■KINO-VISION 2015
(旧称・京都メディアアート週間)
国内の様々な映像作品をセレクト上映！
2015 年 11 月 27 日 (金) ~ 29 日 (日)
入場無料
主催 : KINO-VISION
共催 : 日本映像学会映像表現研究会、ICAFF 実行委員会 + 日本アニメーション学会 & アニメーション協会
協力 : 京都精華大学芸術学部映像コース、VIDEO PARTY

■井上 茜展 「糸白 水」
2015 年 12 月 1 日 (火) ~ 6 日 (日)
13 時 ~ 19 時 30 分 (最終日 18 時)



■「浸透圧」狭間要一 超実用漆器展
2015 年 12 月 8 日 (火) ~ 12 月 13 日 (日)
13:00 ~ 19:30
※オープニングパフォーマンス「浸透圧」
〜 闇光 漆黒の柔らかな水滴り〜
12 月 8 日 (火) 19 時 30 分開場 20 時開始
前売予約 : 1,000 円 当日 : 1,200 円
※野村香子と瀧口翔によるダンスと音楽による
即興パフォーマンス！
予約受付 : hazama.urushi@gmail.com まで。

■ソ・サンヨン作品展
「ロンブルとルミエール」
映像と影を使ったインスタレーション作品
2015 年 12 月 19 日 (土) ~ 12 月 27 日 (日)

Lumen
gallery

www.lumen-gallery.com
info@lumen-gallery.com
090-1144-4746
090-1158-8238
090-8448-9737

〒600-8059 京都市下京区越屋町通五条上る
下鴨形町543 有隣文化会館2F
Yuurin BunkaKaikan 2F, Shimurokogata-cho 543,
Shimogyo-ku, Kyoto 600-8059 Japan
●阪急京都線「河原町」駅10番出口より寺町通を南へ徒歩約10分
●京阪電車「清水五条」駅3番出口より西へ徒歩約5分
●京都市営地下鉄烏丸線「五条」駅1番出口より東へ徒歩約7分
●京都市バス「河原町五条」バス停より徒歩約2分



VOL.2 Issue 2015.11.25

メディア都市京都 第2回 - 歴史的な粗拙 -

森下 彦

ここで付言するなら、このような稲畑のシネマトグラフの芝居小屋での興行を、興行師として取り仕切っていたのが、先述の新京極のパノラマ館の絵図を揮毫した野村芳園である。彼はさらに、ジレールの手伝いをして日本最初の映画撮影に関わっている (いくつかの作品についてであるが)。その時に撮影された映像は「明治の日本」と題されたアンソロジーの中に組み込まれていて、現在

【図版1】



に伝わっている【註3】。芳園の子である野村芳亭と孫の芳太郎は映画監督として有名である。メディア都市という内実には、こうした (時にはメディアを超えてしまう) 人間関係のつながりも含まれるのである。

始まったばかりの映画興行であるが、その雰囲気を知っていただくために画像を掲載したい。大阪や京都、東京での最初の上映から暫く経過した時点で、仏国自動幻画協会と称する組織が全国の上映に向けて作成したと推察される、シネマトグラフ興行用ポスターである【図版1】。

ここでは言及出来ないが、明治期だけに注目してみても様々な視覚的メディアが存在した。年代の後先に構わず列挙するなら、幻燈がそうであり、演劇に映画を組み合わせた連類劇、さらにはキネオラマや汽車活動写真といった仕掛けものなどである。蓄音器などの音のメディアも加えるなら、極めて豊かなメディアの生態系が現出していたと推測出来る。本稿では、僅かにパノラマと活動写真のみを取り上げたが、このような豊穡性については後日の宿題としたい。

後段で映画スタジオや映画館の状況を概観するが、同等に重要なのは家庭でのメディア体験、平たく言えば、幻燈や玩具映画【註4】を家の中で家族や友人たちとて楽しむことである。なるほど、

VIDEO PARTY KYOTO 2015
2015 年 8 月 1 日 (土) ~ 2 日 (日)
今回で 3 回目となる個人映像 38 作品の上映展

VIDEO PARTY はジャンルを問わず、個人によって制作された多様な映像発表の場として企画された公募上映展である。3 回目の開催となる本展では公募 31 作品、台湾の映画祭からの招待作品 7 作品の合計 38 作品、4 時間 30 分に及ぶ充実した作品が集まった。また数作品を昨年より交流のある台湾の「青春世代影展」で上映、さらに「2015 釜山京都交流上映会」に参加、マカオの「當下未来影展」でも上映するなど、アジアを中心に作品交流を進めている。

■出品作家
赤木 崇徳 / 浅野 千里 / art unit COCOA / 市毛 史朗 / 伊藤 仁美 / 植田 翔太 / FMC イラスト工房 / 海上 梓 / キム ダンビ / 小池 照男 / K.Kotani / 諏訪 原 早紀 / 田中 美葉子 / 玉利 萌々子 / 田村 愛 / 程 弘志 / 中西 亮介 南條 沙歩 / 林 絵美 / 林 香奈 / 林 史生 / 東 遼太 / 福井 麻理 / 松井 蛙子 / ミコシバ / ミツ星 レストランの残飯 / 守山 高保 / 由良 泰人 / リーとウリー Ryota / CHAN DER-LU / Nai Wei Liu / Chen You-Ren / Tsai Chun Pin / Chiuan-Huei-Lai / Tsai Yi-Chin + Lu WanJou / Eartha Lin (敬称略)



由良 泰人 (Lumen gallery プログラムディレクター)

Art Sort Boot 2015
2015 年 8 月 24 日 (火) ~ 30 日 (日)
galleryMain と合同企画の公募グループ展

galleryMain との合同企画の公募展が開催された。映像ギャラリー Lumen gallery と、スチル写真専門の galleryMain が協力して実現した初めての合同企画である。壁面が漆黒のルーメンが真っ白のメンカを希望者は選択出来る。2015 年は 23 名の出展者が集まり、黒壁希望が 6 名、白壁希望が 17 名。各自工夫を凝らして、幅 1.2m x 高さ 3m、奥行 30cm の空間に、自由に作品を展示した。

殆どが写真家によるスチル作品ではあったものの、絵画、立体、映像、漆器などの作家も出品してくれたので、作家交歓会は大いに盛り上がった。思えば、この異ジャンル作家交流も本企画の大きな目標のひとつであった。また、本公募企画への出展作家は、今後、いずれかのギャラリーにて個展する際に優遇措置が設けられているのもユニークな特長である。今回はさらに多彩なジャンルの作家が参集してくれたらと思う。今後も毎年 8 月に開催予定。



櫻井 篤史 (Lumen gallery プログラムディレクター)



林 ケイタ (Lumen gallery プログラムディレクター)